ミカン生育情報

第　６　報
千葉県農林水産部
令和５年 11 月号

早生温州の成熟は平年より前進傾向です。
完全着色した果実から食味を確認し、順次収穫しましょう！

１　令和５年 10 月の気象

令和５年 10 月の半旬別の気象を表１に示した。平均気温は第１、４半旬が平年より高く、それ以外の期間は平年より低いか平年並であった。月平均気温は 18.9℃で平年より 0.2℃高く、前年より 0.7℃高かった。

降水量は第１～３半旬で平年並みか平年より多く、第４半旬以降は降水がなかった。月合計は 200㎜で、平年の 78%、前年の 156%であった。

日照時間は第１～３半旬で平年並み、第４半旬以降は平年より多かった。月合計は 202 時間で、平年の 146%、前年の 139%であった。

10 月は全体的に気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多かった。

表１　令和５年 10 月の気象（アメダス館山測候所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(㎜)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	23.1	20.8	22.9	57	45	11	24	21	31
2	18.9	20.0	17.0	38	47	81	21	21	8
3	18.0	19.2	19.3	105	43	25	28	22	13
4	20.1	18.2	18.1	0	41	10	42	22	16
5	16.8	17.3	17.7	0	40	2	40	23	24
6	16.6	16.5	13.9	0	40	1	49	29	29
平均/計	18.9	18.7	18.2	200	255	128	202	138	145

※暖地園芸研究所の気象観測装置の不具合により、アメダス館山測候所データを引用

２　果実及び樹の生育

11 月１日における調査園の果実生育状況を表２に示した。横径は「興津早生」、「大津４号」、「青島温州」が３地区の平均でそれぞれ 6.8cm、7.1cm、7.0cm で、３品種ともほぼ平年並みであった。

縦径は「興津早生」、「大津４号」、「青島温州」が３地区の平均でそれぞれ 5.2cm、4.8cm、4.9cm で、３品種ともほぼ平年並みであった。

果形指数は、「興津早生」、「大津４号」、「青島温州」が３地区の平均でそれぞれ 1.3、1.5、1.5 で、いずれも平年並みであった。

今年度の果実の生育は、全体的に平年並みの傾向である。

表２　果実の生育（令和５年 11 月１日）

品　　種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
興津早生	三芳地区	5.9	6.5	6.8	4.4	5.0	5.5	1.3	1.3	1.2
	千倉地区	7.8	6.2	6.2	6.1	4.8	4.6	1.3	1.3	1.3
	暖地園研	6.6	6.6	7.4	5.0	5.1	5.7	1.3	1.3	1.3
	平　　均	6.8	6.4	6.8	5.2	5.0	5.3	1.3	1.3	1.3
大津4号	三芳地区	6.4	7.0	7.4	4.5	5.0	5.4	1.4	1.4	1.4
	千倉地区	6.9	7.2	7.2	4.6	4.9	4.9	1.5	1.5	1.5
	暖地園研	8.0	7.3	7.9	5.3	5.1	5.5	1.5	1.4	1.4
	平　　均	7.1	7.2	7.5	4.8	5.0	5.3	1.5	1.4	1.4
青島温州	三芳地区	6.5	7.0	7.5	4.6	5.1	5.4	1.4	1.4	1.4
	千倉地区	7.0	7.0	7.0	4.8	4.9	4.8	1.5	1.4	1.5
	暖地園研	7.6	7.2	8.1	5.2	5.1	5.6	1.5	1.4	1.4
	平　　均	7.0	7.1	7.5	4.9	5.0	5.3	1.5	1.4	1.4

注１）各地点の各品種の値は 40 果の平均
　　ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した
　２）果形指数＝横径／縦径

３　「興津早生」の果実品質

「興津早生」の果実品質を表３に示した。

着色程度は、３地区の平均で 8.6 であった。調査地区全てで、平年より高い傾向であった。

糖度は、３地区の平均で 9.8 であった。千倉地区では平年及び前年より低く、三芳地区及び暖地園研では平年及び前年より高かった。

酸度は、３地区の平均で 0.79 であった。調査地区全てで平年より低い傾向であった。また、千倉地区を除き前年より低い傾向であった。

甘味比は、３地区の平均で 13.1 であった。調査地区全てで、平年より高い傾向であった。千倉地区を除き、前年より高かった。

果肉歩合は、３地区の平均で 82.6%であった。いずれもほぼ平年及び前年と同程度であった。

表３　早生温州「興津早生」の果実品質（令和５年 11 月１日）

調査地	着色程度(0～10)			糖　度(%)			酸　度(%)			甘味比			果肉歩合(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
三芳地区	8.2	7.0	6.0	11.1	9.5	9.1	0.75	1.00	1.15	15.5	10.2	8.3	84.4	81.0	82.4
千倉地区	8.5	7.6	8.3	7.9	9.7	8.4	0.85	1.12	0.81	9.7	8.9	10.5	80.2	81.7	81.5
暖地園研	9.2	7.3	8.0	10.3	9.0	9.5	0.75	1.01	1.13	14.2	9.4	9.1	83.2	82.4	82.0
平　均	8.6	7.3	7.4	9.8	9.4	9.0	0.79	1.04	1.03	13.1	9.5	9.3	82.6	81.7	82.0

注１）平年値は平成５年～令和４年の平均値
　２）甘味比＝糖度／酸度
　３）果肉歩合＝（果肉重／１果重）×100

４　11 月の栽培管理

（１）早生温州の収穫・予措

品質を揃えるため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから 10 日後に、８分着色以上のものを収穫する。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鋏を用いる。収穫容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので予措を行う。コンテナに果実を７分目ほど入れ、風通しのいい日陰に２～３日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

（２）秋肥

早生温州では 11 月上旬、普通温州では 11 月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ 10a 当たり成分量で６、４、６kg 施用する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると気温が低下するため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には、収穫後直ちに液肥を散布する。

（３）病害虫の防除

貯蔵病害である青かび病・緑かび病の予防には収穫前日までにトップジン M ゾル（2000 倍液）※等の殺菌剤の散布を行う。

ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。

※早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意する。
※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生 育 情 報 の 発 行 元 》千葉県農林水産部生産振興課
《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html